
暁の護衛に転生者を放り込んでみた。

リベリオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暁の護衛に転生者を放り込んでみた。

【Nコード】

N1975BA

【作者名】

リベリオン

【あらすじ】

病弱だった少年は20歳で死んでしまった。そして死んだ少年は神とであった。神は少年を条件付で『暁の護衛』の世界に転生させてくれると言った。少年は条件をのみ転生する。

この作品は、「ご都合主義」「チート」「原作ブレイク」「性転換」などの要素をふくみます。

プロローグ（前書き）

この小説は作者の妄想の産物です。期待はしないでください。

プロローグ

どうも皆さん始めまして、私の名前は アカツキレイ 暁 零 と言います。

早速で申し訳ありませんが皆さんに報告します。

私は死にました。

……そんな「コイツなに言ってるんだ。」って目をしないでください。私だって認めたくないからです……

といっても死んだのは病気なので仕方ないことです。まあ20年も生きただけでも感謝しましょう。

「貴方はそれで満足なのですか？」

「ん？だれですか？」

「私は貴方達人間が神と呼ぶものです。」

「神様が私のような者に何のようです？」

「先ほども問いましたが、貴方はそれで満足なのですか？病気のせいで寝たつきりで毎日エロゲーばかりの毎日で本当に満足だったのですか？」

「まあ寝たつきりだったのはちょっと残念だったかな……それにべつにエロゲーをやったっていいじゃないか。私だって男なんだし性欲だってあるよ。」

「そんな人生で満足でしたか？」

「人生は選べないよ。もし生まれ変われるなら……もし自由に生まれ変われるとしたら？」……へ？」

「それは輪廻転生ですか？」

「それとはまた違います。貴方にはこの世界とは別の世界に記憶と貴方が望む力を与えて転生させます。」

この展開は……ま、まさか……！

「二次創作とかによくある転生ですか……!?」

「そうですね。ただし貴方の場合あることをしていただきたいのです。」

「何をしたらいいんですか？」

「貴方にしてほしいことは一つです。ある転生者を殺してほしいのです。」

「転生者を殺す………すみませんが理由を聞かせてもらってもいいですか？」

「理由は簡単です。その転生者は私との約束を破りました。それだけです。」

「理由はわかりました。もし私がその転生者を殺したらどうなるのですか？」

「あとは自由に過ごしてくれて構いません。」

「わかりました。貴方の条件をのみます。その転生者の情報を教えてください。」

「貴方が殺す転生者の名前は 石田^{イシダ} 和彦^{カズヒコ} 年齢は25歳で転生した世界は『暁の護衛』の世界です。彼に与えられた力は身体強化ですね。」

「『暁の護衛』ですか……………その転生者はどんな条件で転生したんですか？」

「どんな状況でも人は殺さない。とゆう条件でしたが彼は転生して15秒でやぶりました。」

「早!!!」

「彼は暁東市の禁止区域を支配しています。時間軸は原作が始まる25年前です。なので主人公やヒロイン達はまだ生まれていません。」

「なるほど……………それで私にはどんな力を与えてくれるんですか？」

「まずは身体能力の強化。それと全ての才能をあたえます。」

「全ての才能？」

「簡単に説明すると何をしても完璧に極めることができます。絵を描こうと思えば初めて書いてもうまく書けたりします。そして少し努力することによりプロの画家になれます。」

「なるほど……他にも何かももらえますか？」

「貴方が望むものを与えましょう。ただしあくまで世界観を無視した能力はむりです。」

「なるほど……それじゃあまず……HELLSINGのウォルターさん並に鋼線を使えるようにしてください。」

「それなら問題は無いですね……他には何かありますか？」

「DARKER THAN BLACKの黒クイの使っている装備を一式を用意してもらえますか？」

「構いませんよ。ただし能力は使えませんからコートには防弾性能はありませんよ。」

「構いません。」

「では貴方が転生したら装備一式と予備を遅らせていただきます。」

「ありがとうございます。あとはどこか特訓できる場所はありませんか？」

「でしたらこの空間を使いなさい。この空間は外との時間と切り離していますからいくらいても問題ありません。」

「ありがとうございます。」

「この空間は貴方が望めば色々な構造物や的がでてきます。あとは転生するときはこの扉を開けると転生できます。ではこちらが武装一式です。」

「ありがとうございます。ではまたいつか会いましょう。」

「貴方の人生に幸福があらんことを……………」

そう言って神様はいなくなった。

とりあえず修行でもはじめますか……

????年後……

神様に会ってからどれぐらいの時間がたっただろう………少なくとも100年はたっただろうか。

私の銅線とワイヤーを扱う技術は完璧と言ってもいいレベルになった。体も鍛え上げ、身体能力もはや人外だろう。

ナイフの技量はわからないが投擲の技量なら自信がある。最近はず本のナイフで投擲と切撃を同時にだせる技をみだした。

よくわからないけど正面からナイフを投擲して一瞬で私が相手の頭上に移動して相手に投擲されたナイフを回収し相手の動脈を切り裂くとゆう流れなんだけど………なぜか投げたナイフが刺さった傷もあるし動脈も切っている。

なぜこうなったかを神様に聞いてみると……「貴方の一連の動作があまりにも速すぎるから世界が追いつけていないのです。そのため同じナイフが一時的に2つある状況になるのです。おそらくその技は低級の神ですら殺せるでしょう。」……らしい。

まあ使う場面は無いだろうし特に問題は無いだろう。

あとは銅線を張ってその上を歩いたりすることも出来るようになった。

これは本当に面白かった。神様曰く…「人が空を歩いたり飛んだりしている」…らしい。

とりあえずどちらも人では極めることが出来ないレベルらしい。

これだけの力があれば問題ないだろう。そろそろ私は転生しようと思う。まあ実際はこの空間にも飽きた。

とゆうことで私は扉をあけた。

しかし何もきなかった。

「へ？」

と自分でもわかるほどの間抜けな声を出した。さして次の瞬間、私の足場が消えた。

「やっぱりおちるんですね――――――」

私は落ちていった。

プロローグ（後書き）

感想をお待ちしております

新しい命……そして散る命……（前書き）

一話から濃い話……

新しい命……そして散る命……

私が目を覚ましはじめに飛び込んできたのはボロボロの天井だった。

「知らない天井だ……」

と私は転生者としては言わなければならないことを言ったときあることに気づいた。

声の音程が高いのだ……まるで女の子のような……

私は立ち上がり自分の体を確かめた。服装はDARKER THAN BLACKの黒の^イコートを私サイズまで小さくしてあわせたものでズボン^イは黒いズボン、ベルトにはワイヤーが仕込まれていた。コートの中を確認すると黒の^イ愛用しているナイフとそれを収めたホルスター、それと小さいがお山が二つ……

私はそのふくらみにふれてみた。すると自分の体に反応した。とゆうことはこれは私の体の一部で……念のため下も確認したがなくなっていた。

「これは……女になっている。」

と冷静に声に出してみたが内心は混乱してうまく思考がまとまらな
いでいた。

とりあえず私の体のことは置いておいて（とゆうかただの現実逃避）
私は辺りを見渡した。

どこかの部屋なのだろうが天井や壁はボロボロで色々なガラクタや
コンクリの破片が散乱している。などと分析しているとまったくこ
の部屋にはまったく似合わないバックをみつけた。

「中身はなんだ？」

私はバックのチャックを開けて中身を確認した。中にはDARK E
R T H A N B L A C Kの黒（黒い）のと同じ仮面が数枚と予備のナイフ
が数本、あとは予備のコートと着替えが数着と銅線を巻いたリール
が5つ、ワイヤーの予備、後はクレジットカードが1枚に財布、あ
と手鏡と手紙が入っていた。

「これは神様が言っていた装備一式か……」

私はまず手鏡に手をのばした。自分の姿を確認したいからだ。

私は自分の手に持った鏡の中を覗き込んだ。

鏡の中には美少女がいた。髪の毛は黒く長い、目は赤く顔立ちは10歳くらいだが間違いなく美少女だった。

「これが私か……前世ではあまりにも普通すぎる顔だったからな……とゆうかやっぱり女なのか……」

まあいままさらどうすることも出来ないので仕方なく私は手紙を確認することにした。

「えっと……貴方がコレを呼んでいるとゆうことは無事に転生できたとゆうことでしょう。」って全然無事じゃないけどね。まあいですけど……えっと続きは……「貴方が今いるのは暁東市の禁止区域の中で特別禁止区域、通称特区と呼ばれているところにあるアパートの一室です。ちなみにそこは原作では今から5年後に朝霧夫^{アサギリ}婦が使う部屋です。原作では須藤^{ストウ}が使っていたとされていますが今は使われていませんのでだいじょうぶです。」……へーここがそうだったんですね。まあそれは今はいいです。……状況説明はここまでにしておきます。次は貴方のターゲットである石田^{イシダ}和彦^{カズヒコ}について説明します。まず彼は禁止区域をほとんど支配しています。ただし地下は支配しておらずにまだにらみ合いを続けている状態です。ちなみに五十嵐^{イガラシ}は既に地下で『組織』の基盤をつくりあげています。「なるほど……」あと石田^{イシダ}和彦^{カズヒコ}の戦闘能力は朝霧^{アサギリ}海斗^{カイト}並み

です。「……………海斗カイト並か……………ならあまり問題は無いな。……………」ちなみにクレジットカードには大金を入れています。暗証番号はこの手紙の裏に書いてあります。では貴方の人生に幸福であることを祈っています。「……………なるほどね……………」

とりあえず状況はわかった。まずは周りの地形でも調べにいくか……………

私は念のためバックを部屋に隠して仮面を付けて外にでた。

数分後……………

17

私は男達に囲まれていた。

男A「よー坊主、いい服を着てんじゃねーか」

男B「とゆうかその仮面は何だ？バックジャーネー」

私を取り囲むように男達は立っている。人数は30人ほどだろうか。

とりあえずこいつらを半殺しにして 石田^{イシダ} 和彦^{カズヒコ}の場所を言わせる
か……

男A「シカトしてんじゃねーぞゴラァー!!」

そついいながら私の前の男が殴りかかってきた。

(あまりにも遅すぎるな……)

私は男のパンチを掴んでそのまま投げ飛ばした。

投げ飛ばされた男は廃墟の壁に頭から突っ込みグチャとゆう音を上
げて地面に落ちた。頭はつぶれ壁には血と脳漿がこびりついている。

(コレが人殺しか………たいしたことは無いな。)

男B「テメー、よくも安藤^{アンドウ}を!!」

そう言ってさっきの男の横に立っていた男が殴りかかってきた。そ
してそれを合図としたのか周りの男達も殴りかかってきた。

「――
ギヤ―」

「――」

「――」

「――」

「出る音」

「――」

「――」

「ヤ―」

「――」

「――」

「――」

「大原！！テメーよくも大原をや……グ

「相手は一人だ困んで一気に行くぞー」

「……………おう」「……………」

「突撃――――！！」

「うおー…ブシャー（首から血が吹き

「な！何が起きたのだ！……………グベギユ

「首が一瞬で吹き飛んだと……グビヤ

「逃げ……逃げないと殺さ……ウギ

「ば、化け物だ……ブビヤ……」

「誰か仲間を連れて……ブベルバー

「た、助け……ブチャ……」

お知らせ

映像が回復します。

大変ご迷惑をおかけしました

私は襲ってきた男達の中からリーダー的ポジションにいたと思われた
2人を半殺し状態にして他のやつらは物言わぬ肉片にかえてやった。
そして今はこの2人から情報を聞き出している最中である。

「お前達は 石田^{イシダ} 和彦^{カズヒコ} の居場所を知っているのか？嘘を言った
ら……わかるな。」

私は前世で得意だった声真似を使いドスの効いた声を出して2人に
聞いた。

片方は頷き、もう片方は首を横に振った。

私は首を横に振った方の喉をナイフで切り裂いた。切り裂かれた男は血を噴出して絶命する。

「この男のようになりたくなかったら全て話せ。」

そして男は話し出した。石田^{イシダ} 和彦^{カズヒコ} のアジトの場所、その組織構成などを……

そして私は男は話終わるとその首をナイフで切り裂いた。

これで 石田^{イシダ} 和彦^{カズヒコ} を殺す算段がついた。今夜にでも仕掛けるか

……

私は自分の部屋に戻った。

新しい命……そして散る命……（後書き）

感想をお待ちしております。

市内散策……（前書き）

今回は平和な日常……

市内散策……

どうも 暁 零 です。私は今自分の部屋で 石田 和彦 を殺すプランを立てています。

まあプランと言っても夜になったら正面から堂々と侵入するんですけどね。

まあかなり警備が嚴重だしそれならいつそのこと正面から突撃した方が早いんですね。

まあ私の力なら簡単なんでしょうけどね。

さて……神様の条件はどうにかなりそうだから次は自分の今後について考えようか。

とりあえずまずは 朝霧 百合 の死を回避する事ですね。

朝霧夫妻が禁止区域に来たら須藤より早く接触してこの部屋を与えたらいいでしょう。

まあ確実な方法は須藤を殺せば早いんですが、そうしてしまうと警察に須藤が捕まらないので警察側に8月23日の計画が伝わらな

い可能性が出てきますし地下の『組織』と敵対するのはリスクが高いです。まあ須藤^{ストウ}の殺害は本当の切り札にしましょう。

次は私自身の事です。

私の身長は125cmで歳は10歳前後だと思います。顔は……自分で言うのアレですがかなりの美少女です。

もちろん性別は女ですね。まあ前世が男だったので違和感がありますがこればかりは慣れるしかありませんね。

いっそのこと女の子として生きて恋愛でもしてみるのもアリかもしれませんが……すみません。やっぱり恥ずかしいです。ノノ

とりあえずこの禁止区域では女とゆうことで狙われたりするので性別を偽る事にしましょう。私は声を自由に変えれますしね。

あとは仮面を着けたら問題はないでしょう。

とりあえずこんなところでしょうか。あとは臨機応変に対応していくしかないでしょう。

そう言えばそろそろお昼ですね。禁止区域ではまともな食事は難しいでしょうから表側に出て見るのもいいかも知れません。服なら問題ないでしょうしお金なら神様が用意してくれたモノがあります。それに町を見ておくのもいいですね。

私は夜まで表側の町を散策するために準備をして部屋を出た。

暁東市 駅前……………

(まずは銀行にいきますか……………)

表側に出てきた私はまず銀行を探していた。神様にもらったお金が一体どれぐらいの額なのか調べるためだ。

銀行はすぐに見つかり私はATNを利用するため銀行に入った。

銀行に入ったとき警備員に凄じ睨まれた。やっぱりこの服装は怪しいのだろうか？まあお金を確認したら服装を買いに行くか……………

などと思いながらATNを操作してカードの残額を調べると……………

0が多いな……………一体いくらあるんだ？……………9千兆もあるよ！！

神様は私に大金をくれた。しかもとんでもな額の……

とりあえず私は100万ほど口座から下ろして財布の中に入れた。

これだけあれば足りるだろう。

私は銀行を出て洋服店に向かった。

洋服店内……

「いざ来てみたものはいいけどどんな服を買えばいいんだろ……」

私は銀行を出た後近くにあった洋服店に入った。しかし、前世では病弱だった私は病院から支給された服しか来たことがなく、服を買うなんて経験は無かったのだ。

「とりあえず無難な服を選ぶ事にしますか……」

とりあえず私服用に黒い色のロングスカートを1着とそれにあわせて白い服を1着を購入して洋服店を出た。

「まあこんな感じでいいかな……………しかしスカートってかなりアレだな……………」

とりあえず服は買えたし後は表側に家が欲しいところだけど戸籍と必要だろうし……………大体私ってまだ10歳前後の子供だしね……………どうしよう……………

まずはやっぱり戸籍が必要ですね……………どうかでお金で買えないでしょうか……………

などと考えていると……………

「お嬢ちゃん。こんなところで何をしているんだい？」

私はスーツを着た男に呼び止められていた。

「この先は高等区だからあまりちかずんないほうがいいよ」

「わかりました」

と言って私は来た道を引き返した。

（あそこが高等区か……今はちかずかない方がいいだろう。）

その後、町を散策し近くにあったファミレスで昼食をとり、再び町を散策し、夕方まで時間をつぶした。

私は禁止区域に戻る途中にコンビニにより夕食を購入して禁止区域に戻った。

余談だが暁東市の物価はかなり高かった。

市内散策……（後書き）

感想をお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1975ba/>

暁の護衛に転生者を放り込んでみた。

2012年1月6日04時46分発行